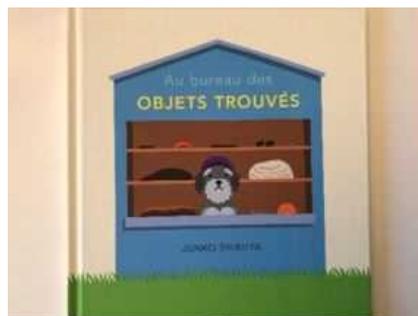


26 フランスで活躍する日本人絵本作家（2021年1月19日）

パリの本屋で見つけた日本人作家の絵本をよく見てみると、翻訳本ではない作品があることに気がきました。フランス語で絵本を出版されている日本人絵本作家が何人もいらっしゃいますので、ご紹介します。

渋谷純子さんは、日本でイラストやデザインの仕事をしていたが、2005年に渡仏して2010年に絵本作家としてデビューされました。私の本屋で出会った「Au bureau des OBJETS TROUVÉS」（おとしものあずかりしょ）は、落とし物預かり所で働く犬と、落とし物を引き取りに来るお客さんのお話です。お客さんはナメクジかと思いきや、実は家をなくしたある別の生き物。ネコかと思いきや、実は立派なマフラーをなくしたある動物。問いかけをして次のページで答えを示すというクイズ形式の絵本は、日本の絵本ではよく見かけますが、渋谷さんによればフランスの絵本にはなかったスタイルだそうです。



© Actes Sud junior

市川里美さんによる砂漠で暮らす少年ジブリルが主人公の「Les voitures de Jibril」（ジブリルのくるま）、なかむらじゅんこさんによる絵画作品集のような「lune」（月）、Kotimiさんによる昭和の子どもたちの生活を描いた「Momoko」、宮本千安紀さんが温かみのあるイラストを描いた「Iris et l'escalier」（イリスとかいだん）、はやしえみりさんによる愛らしい動物が登場する幼児向けの「Regarde dans la jungle」（仮訳：ジャングルのなかをよくみてごらん）など、フランス在住の日本人絵本作家による素敵な作品がたくさんあります。



LES VOITURES DE JIBRIL, de Satomi Ichikawa, © 2011, l'école des loisirs, Paris

デザイナーで造本作家でもある駒形克己さんは、日本在住ですが、フランスでも人気があります。例年であれば年に数回はヨーロッパを巡回してワークショップを開催しています。グルノーブル市から依頼を受けて制作された「ほしのうまれるところ」（L'Endroit où dorment les étoiles）は2004年に日仏同時発売され、日本語、英語、フランス語が併記された仕掛け絵本です。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

作品は日本語ですが、フランスで活動した日本人作家もいました。谷内こうたさんは、1970年代にドイツとフランスで暮らし、「なつのあさ」(Là-haut sur la colline)で1971年に日本人として初めてポローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞しました。「あのおと なんだ」(qui m'appelle?)は、1972年にポローニャ国際児童図書展エルバ賞を受賞した作品です。谷内さんは、日本で活動を続けた後に再びフランスで生活されましたが、残念ながら2019年にルーアンで亡くなりました。



次はどのような素敵な作品に出会えるか、本屋で絵本を探すのが楽しみです。